

学校経営目標	具体的計画	令和4年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		学校関係者評価		
			達成状況	** 改善策	達成状況(R3.12結果)	** 改善策			
1 あいさつなどの基本的な生活習慣の確立と	① 朝の挨拶運動や外部講師の講話、学校行事、授業等における挨拶や発表の指導を徹底する。	○「友達や家族に進んで挨拶している」と回答する生徒が90%以上(昨年度は88%) ○「地域の人に進んで挨拶している」と回答する生徒が90%以上(昨年度は94%)。 ○「友達・家族に進んで自分の思いを伝える」と回答する生徒の割合が75%以上(昨年度は74%)	○「友達や家族に進んで挨拶をしている」と回答した生徒・・・86.4% ○「地域の人に進んで挨拶をしている」と回答した生徒・・・88.1% ○「友達・家族に進んで自分の思いを伝える」と回答した生徒・・・71.2%	B	・「挨拶をしている」も「思いを伝える」とも、達成基準とアンケート結果は数値的にはかけ離れてはいるが、感覚としては、できていると思えないため、教員が実践したり、品格目標が挨拶の月を強化月間として意識を高めたり、登下校時の挨拶を徹底する。	○「友達や家族に進んで挨拶をしている」と回答した生徒・・・85% ○「地域の人に進んで挨拶をしている」と回答した生徒・・・87%  ○「友達・家族に進んで自分の思いを伝える」と回答した生徒・・・68%	B	・挨拶については、達成基準に近い数値であるが、達成感をより高めたり、好感がもてる挨拶ができるようにするために、SELの授業で、挨拶について取り上げ、少しずつ実践できるようにする。 ・SELの授業を通して、コミュニケーションスキルを身につけられるようにすることにより、良好な学級集団作りに努める。	○自己評価は妥当である。  ○自発的な取組として継続していくことが大切である。 ○親や教職員が子どもの手本となるべき。  ○挨拶強化月間を作ると良い。
	② 早寝・早起き・朝ご飯やメディアコントロールの強化週間、生活習慣チェックカードの取組、保護者啓発等を工夫・改善する。	○「自分は生活習慣が整っている」と回答する生徒の割合が50%以上(昨年度は39%) ○きらきらカードで合計得点が8割以上の生徒の割合が50%以上。	○「自分は生活習慣が整っている」と回答した生徒・・・57.7%  ○きらきらカードで合計得点が8割以上の生徒の割合・・・43.1%	B	・基本的な習慣(忘れ物をしない、教室の使い方、プリント類の整理など)をまず徹底させる指導をする。 ・学年団できらきらカードをチェックし、副担任も協力して提出を促す。  ・チェックカード配付時やメディアコントロール期間中に書き方などを生徒に説明したうえで、記入させる。また、保護者にも、懇談でも話題に取り上げて知らせ協力を得る。	○「自分は生活習慣が整っている」と回答した生徒・・・48%  ○きらきらカードで合計得点が8割以上の生徒の割合・・・40.7%(29.5%)	B	・生徒が記入しやすいように、様式の見直しをする。 ・中間の改善策に加えて、メディアコントロール期間中には、毎日きらきらカードを提出させ、学年団全員でチェックする体制を整える。	○自己評価は妥当である。 ○メディアコントロールにおいて、何を目標とするか具体的に決めるべき。 ○学校で生活習慣を整えることの重要性を伝えていくべき。 ○一気には良くならないので継続する。
	③公開授業を通して、SEL(社会性と情動の学習)等の実行度を上げるとともに、ピア・サポート活動や合同授業・行事、キャリア教育講演会や職業人と語る会、体験入学等を工夫する。	○「自分の将来について考えている」と回答する生徒が80%(昨年度は77%) ○「自分の将来について考えている」と回答する保護者が75%(昨年度は72%) ○次のアセスI項目(各学年最終回)の平均値が前年度以上。 ・非侵害的関係平均値(R3年度末:4.1) ・友人サポート平均値(R3年度末:4.0)	○「自分の将来について考えている」と回答した生徒・・・72.9%  ○アセス結果 非侵害的関係平均値・・・4.31 友人サポート平均値・・・4.13	B	・生徒自身の自信につながっていないため、SELの実行度を上げ、学習したことを発揮できる場を設定することにより、自信をもたせる。市内他の中学校と、リモートなどで交流したり、合同授業を行ったりして、実生活で通用するSEL力をつける。	○「自分の将来について考えている」と回答した生徒・・・76% ○「自分の将来について考えている」と回答した保護者・・・77%(72%)  ○アセス結果 非侵害的関係平均値・・・4.2 友人サポート平均値・・・4.0	B	・今年度は、SELの実行度は不十分だった。 ・義務教育学校への移行に向けて各分野の学年別の指導計画を再検討し、3年間(R6年度以降は4年間)を通しての各学年(クラス)に応じた指導計画を構築して実践する。	○自己評価は妥当である。 ○子どもに対して肯定的な言葉かけを保護者がするようにする。 ○キャリア教育で仕事に就いた理由を知ることには憧れにつながる。 ○「夢を語る会」のような時間を取ってもいいのでは。
2 学習習慣の向上確立と	④ 小学校では朝学習・昼学習や読み聞かせ、中学校では朝学習や0→1プロジェクト(婦りの会、週末課題や・自主学習ノート等を活用した家庭学習の指導)を通して、個に応じた補充的学習を工夫・改善する。	○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答する生徒が80%以上。 ○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答する保護者が80%以上。 ○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答する教職員が80%以上。	○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答した生徒・・・72.9%  ○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答した教職員・・・50%	B	・学年懇談で保護者にめやすの時間を伝え、周知する。 ・金曜日の0→1タイムに週末課題・自主学習の計画を立てさせる。 ・テスト期間の補充学習は、「質問日」にして一人でできるものは、家庭で取り組ませる。 ・夏休み中に行った研修後に提出した「課題の出し方」を閲覧又は配付して教員間でシェアし、質を高める。	○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答した生徒・・・76% ○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答した保護者・・・65%  ○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答した教職員・・・67%	B	・「学年のめやすの時間」について、数値の改善が見られるなど、生徒の意識が次第に高まってきている。 ・めやすの時間をさらに周知させるために、HP、学年だよりに学期ごと、テストなどの節目に掲載する。 ・補充学習(放課後)の時間を生徒が含めていない可能性があるため、アンケート記入時に担任から補充学習の時間を含めるように生徒に伝える。 ・課題の出し方は教員間で少しずつ共有しており、参考になっているので、情報交換を継続しつつ、タブレット学習の課題の出し方の研修をする。	○自己評価は妥当である。 ○昨年と比べてきらきらカードの内容がわかりやすくなった。 ○学習は時間が増えたらいいというものではなく、効率も大事。生徒が自分の課題を明確にすることができたら自主的な勉強ができるようになる。
	⑤ 協同学習と「岡山型学習指導のスタンダード」の実行度を高め、小中教員相互の授業参観・授業研究を進める。	○「授業はわかりやすいと思う」と回答する生徒が85%以上(昨年度は85%) ○「授業はわかりやすいと思う」と回答する保護者が80%以上+D8:D10(昨年度は68%)。	○「授業はわかりやすいと思う」と回答した生徒・・・78%	B	・授業5の徹底。予習の時間を確保するように指導する。 ・全国や県の学力調査の問題の中で正答率が低いものや苦手なものを授業で取り上げて取り組ませ、週末には類似問題を課題として出し定着させる。	○「授業はわかりやすいと思う」と回答した生徒・・・93% ○「子どもは、授業はわかりやすいと言っている」と回答した保護者・・・76%(68%)	A	・生徒の回答は中間期の78%に比べて、15%向上している。また、保護者の回答も昨年度より8%向上した。ただし、保護者の肯定的な回答率が生徒のものとの差があるため、アンケート回答時に子どもの意見を聞いて回答してもらえるようお願いの一文を加える。	○自己評価は妥当である。 ○正答率の低かった問題等を繰り返しさせることで理解力が上がっていくと思うので、継続するのが良い。
3 地域への愛着と誇りの育成	⑥ 地域に赴き、地域との連携・交流や校園間の交流を深めるとともに、地域防災について考える活動やボランティア活動等を工夫する。	○「地域の行事に参加している」と回答する児童生徒が75%以上(昨年度は71%) ○「子どもは地域の行事に参加している」と回答する保護者が75%以上(昨年度は83%) ○「連携した防災学習・活動が進められている」と回答する保護者が80%以上(昨年度は86%) 地域住民が80%以上(昨年度は80%)、教職員が80%以上(昨年度は82%)。	○「地域の行事に参加している」と回答した生徒・・・76.3%  ○「連携した防災学習・活動が進められている」と回答した教職員・・・100%	A	・被災地、地域の一員としての意識が高い。さらに、防災面では、自分より小さい子を守る意識を高めるために、おひさまとの合同防災訓練を充実させる。 ・4分の1の生徒が学区外から登校してきているため、その生徒たちの取扱いが課題。また、中学校から昭和地区へ来た生徒は、地域行事に参加しづらいため、地域のとらえ方について共通理解を図って、指導に生かす。(総社市内に住んでいる生徒は総社市を地域としてとらえ、岡山方面の生徒は岡山市を地域としてとらえるなど)	○「地域の行事に参加している」と回答した生徒・・・76% ○「子どもは、地域の行事に参加している」と回答した保護者・・・70%(83%)  ○「連携した防災学習・活動が進められている」と回答した保護者・・・80%(86%) ○「連携した防災学習・活動が進められている」と回答した地域住民・・・75%(80%) ○「連携した防災学習・活動が進められている」と回答した教職員・・・100%	A	・ここ2年間、コロナ禍で地域の行事中止が多かったが、再開されれば参加しようという意識は高い。(学区外の生徒も含む) ・昨年度から始まったおひさまとの合同防災訓練を定着させたい。来年度は美袋地区3区とも合同で行うなど義務教育学校開校に向けて一層、防災学習活動の充実を図る。	○自己評価は妥当である。 ○公民館の講座で中学生も参加できる講座があるので、そこへの参加を勧めてみるなどして欲しい。そこに来られている地域の方との交流もできる。公民館の自主講座で部活につながるものもあるかもしれない。
	⑦ 地域によさについて英語で表現する面白さを子どもが味わえるよう、英語特区やインバウンド教育に係る子どもの主体的活動を工夫する。	○「昭和・維新地区は、よい所だと思う」と回答する生徒が90%以上(昨年度は93%) ○「英語で人とつながる(話す)のが楽しい。」と回答する生徒が75%以上(昨年度は73%) ○「学校は小・中一貫教育の取組について情報発信を十分行っている」と回答する保護者が80%以上(昨年度は81%)、地域住民が90%以上(昨年度は100%)、教職員が90%以上(昨年度は95%)。	○「昭和・維新地区は、よい所だと思う」と回答した生徒・・・89.8% ○「英語で人とつながる(話す)のが楽しい」と回答した生徒・・・76.3% ○「学校は小・中一貫教育の取組について情報発信を十分行っている」と回答した教職員・・・92.9%	A	・地域の人々は生徒を愛しているし、生徒も地域が好きである。その環境を活かして、どんなところがどれくらい好きかを日頃から考え、表現する仕掛けを作る。また、表現(コミュニケーション)するには相手が必要であるため、市内の中学校や海外などいろいろな相手を見つけて活動できる場を確保する。	○「昭和・維新地区は、よい所だと思う」と回答した生徒・・・94% ○「英語で人とつながる(話す)のが楽しい」と回答した生徒・・・76% ○「学校は小・中一貫教育の取組について情報発信を十分行っている」と回答した保護者・・・78%(84%) ○「学校は小・中一貫教育の取組について情報発信を十分行っている」と回答した地域住民・・・86%(100%) ○「学校は小・中一貫教育の取組について情報発信を十分行っている」と回答した教職員・・・100%	A	・メルトンセカンダリーカレッジ、ネパールとの交流やインターナショナルデイに加えてウクライナ交流も2回行い、交流機会が増えた。また、様々な活動を通して、相手意識をもってコミュニケーションを行ったり、インバウンド情報を伝えたりすることができた。 ・来年度のメルトンセカンダリーカレッジとの連携をどのようにしていくかが課題である。 A ・授業外でも自然に英語が飛び交う雰囲気を生徒と一緒に作り、英語でのやり取りの楽しさを実感させ、「英語で人とつながる(話す)のが楽しい」と回答する生徒を増やしていきたい。 ・義務教育学校開校に向けた情報発信はひんぱんに行ったが、小・中一貫教育の取組の発信は十分行っているとは言えない。今後の効果的な在り方について検討したい。	○自己評価は妥当である。 ○新型コロナウイルスの影響で保護者の集まる場が減っており、その中で保護者の情報発信について工夫してよくやっているとと思う。 ○保護者同士の情報発信の手立てを色々と検討していきたい。